

I 研究テーマ及び研究計画

1 研究テーマ

「こころ からだ はずむ 柏っ子」
～みんなで 運動遊びが 大好きな子どもを育てよう～

【テーマ設定の理由】

○「子どもの育ちに関する課題」から

近年、少子化や都市化によって集団で遊ぶ機会が減少し、家庭でも生活や遊びの中で体を動かす経験が減少するに連れ、体の動かし方を十分に会得できない子どもが増えてきた。文部科学省の調査でも、最近の子どもたちは、昔に比べ身長・体重等の体格は向上しているにもかかわらず、昭和60年ごろを境に、体力・運動能力は長期的な低下傾向が続き、近年は下げ止まりの傾向にあることが報告されている。

また、柏市の幼稚園や保育園においても、幼児が転倒した際に手をつけず顔面をけがしたり、以前よりも動き方がぎこちなかったりする状況が少なからず報告されている。

○「幼児期運動指針」から

平成24年3月に文部科学省が「運動習慣の基盤づくりを通して、幼児期に必要な多様な動きの獲得や体力・運動能力の基礎を培うとともに、様々な活動への意欲や社会性、創造性などを育むことを目指す」として「幼児期運動指針」を策定した。幼児期に必要な多様な動きの獲得や体力・運動能力等を培うことが、豊かな人生を送るための基盤づくりとなることが示されている。

○「これまでの調査結果」から

現在の研究体制になってから、今年度で5年目を迎える。これまでの調査結果から「自由遊びの時に運動遊び・外遊びをする頻度の高い子ども」「遊び友達の数が多い子ども」ほど体力が高いという結果がみられた。また、「1日に60分以上外遊びをする子ども」の方がそうでない子どもより運動能力が高いという結果もみられている。これらのことは、子どもが主体的に体を動かす遊びを中心とした身体活動を、幼児の生活全体の中に確保していくことが重要であることを示している。

体力が培われることは、生涯にわたって健康を維持し、積極的に学習活動や社会的な活動に取り組み、豊かな人生を送るための重要な要素となる。特に、幼児期は基本的な動きやバランス感覚が著しく発達する時期であり、この時期に運動や遊びの中で十分に体を動かすことが必要である。幼児期の体力は、一人一人の幼児の興味や生活経験に応じた遊びの中で、幼児自らが十分に体を動かす心地よさや楽しさを実感することでつくられることから、幼児が体を動かす機会や環境を充実させることが必要である。

以上のようなことを踏まえて、本テーマを設定した。

2 研究目標

- 遊びを充実させていく中で楽しみながら進んで運動しようとする意欲を育て、柏市全体の幼児の健やかな成長をめざす。
- 各園の園児の運動能力の現状を把握して、カリキュラムの見直しや環境設定の工夫、家庭との連携等の実践を通して保育の向上を図るとともに、柏市の幼児教育の充実を図る。

3 研究組織

共同研究推進委員会

○幼児教育に関する「共同研究」の推進役として、研究テーマに関する情報収集、研究目標の設定、研究方法や内容等の計画を行う。また、研究発表会の開催、研究報告書の発行等を行う。

《委員構成》

委員長	私立幼稚園協会会長
副委員長	柏市立教育研究所長
	私立幼稚園協会研究部長
委員(10名)	私立幼稚園協会研究副部長
	私立幼稚園協会主任会
	私立認可保育園連絡協議会
	柏市立保育園
顧問	柏市立教育研究所
	聖徳大学大学院教授

共同研究協力員(各園1名)

- 共同研究に参加する市内公私立幼稚園及び保育園から1人ずつ委嘱する。
- 「共同研究推進委員会」で協議したことをもとに、所属する園において中心になって共同研究を推進する。(研究テーマに基づいた実態調査、現状と課題の把握、課題解決に向けた実践及び実践報告のまとめ等)
- 共同研究推進委員はこれを兼ねることができる。

4 研究内容と方法

- ・市内幼稚園・保育園で運動能力テストを実施し柏市としてデータをまとめ、幼児の運動能力全国調査と比較して柏市及び各園の現状と課題を明らかにする。結果のよかったものについても分析する。(運動能力測定は、「幼児の運動能力テスト研究会作成：1999」を参考にして作成した柏市「幼児の運動能力測定」実施要項をもとに実施)
- ・幼児の家庭状況や保護者の意識に関するアンケート調査を実施し、幼児の運動能力との相関関係をデータとしてまとめる。
- ・運動能力測定やアンケート調査をもとに、各園で課題解決に向けた手だてを話し合い、実践する。
- ・柏市の実態をもとに、子どもたちの運動に対する意欲を高める遊びを、園だけでなく家庭にも紹介して運動遊びを充実させていく。
- ・今年度の調査結果と各園の実践例を「研究のあゆみ」にまとめるとともに、「共同研究発表会」を開催して報告する。

《研究の重点》

研究内容	研究方法	今年度の重点
園児の実態把握	運動能力測定	◎
	園生活調査	○
	家庭生活調査	◎
運動遊びの充実	環境設定やカリキュラムの見直し	○
	わくわく運動遊びの充実	○
	家庭への啓発	◎
	運動あそび指導者講習	◎

5 研究計画

- (1) **運動能力測定** ○測定期間 5月～6月中
○対象：年中・年長児の原則全員実施（園の実態で抽出児も可）
身体的理由等がある場合はできるものだけ測定（種目別に平均）
- (2) **家庭調査** ○調査期間 5月～6月中
○家庭状況や保護者の意識に関するアンケート調査を実施
- (3) **運動遊び紹介** ○幼児期に大切な運動の5つの要素から「わくわく運動遊び」の紹介
- (4) **結果報告** ○提出日 7月2日（主任研修会）
○提出物 ①「運動能力測定記録」
②「家庭生活調査」
③「園生活調査」, 「担任意向調査」
- (5) **全体集計** ○各園への報告 8月26日
○教育研究所で柏市全体の結果集計など
○柏市全体の集計結果を配付
- (6) **園の実践** ○柏市全体の集計結果と課題から、各園の課題を明らかにする。
○園の課題をもとに、運動能力を高めるための手だてを考える。
○各園の実態に合った実践に取り組む。
- (7) **実践報告** ○各園の課題と実践をまとめ、推進委員会に報告
○研究推進委員会で、「柏市の調査結果と課題」をもとに今年度の共同研究
について考察

6 研究報告

- 調査データや各園で取組んだ事例を研究のあゆみにまとめる。
- 共同研究発表会を開催する。幼児教育関係者だけでなく保護者や一般市民も対象とし、運動・体力・健康に関する講演も行う。

平成26年度「柏市幼児教育共同研究」研究発表会

《開催日》2月27日（金）14:30～16:45

- ・研究報告
- ・実践報告（高野台保育園・柏幼稚園）
- ・講演

演題：「遊びと生活の中で経験する動きの大切さ」

講師：東京学芸大学 教育学部
准教授 吉田 伊津美 先生

《会場》ウェルネス柏 研修室